

(総括評価表〔付表：戦略6〕)

取組みの方向性	安心を実現する	戦略	【戦略6】長寿を楽しむ	施策数	取組数	H24事業数	H25事業数	H24決算	H25予算
			～長寿を恐れない社会から長寿を楽しむ社会へ～	5	11	55事業	57事業	3,713,748千円	5,563,896千円

1 戦略の内容

(1)現状と課題

4人に1人が高齢者である本県は、全国でも有数の長寿県です。長寿を楽しむためには、生涯を通じた健康づくりの取組みに加え、地域・社会貢献活動の推進などによる生きがいづくりが重要となっています。また、認知症高齢者をはじめとする要介護高齢者が、地域で安心して生活することができるよう、支援する取組みが必要です。

(2)概要

何歳になっても、健康でいきいきと仕事やボランティア活動に打ち込むことができ、知識や経験、技能などの持てる力を生かし、生きがいを持って活躍できるよう、高齢者の“居場所”と“出番”を提供します。また、医療や介護が必要になっても、安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域包括ケアの体制づくりを行政、医療、福祉が連携した“オール熊本”で進めます。このような取組みを通じて「長寿を恐れない社会」を更に一歩進め、「長寿を楽しむ社会」をつくります。

(3)体系 (単位：千円)

①長寿を楽しむ	◆いつまでも元気に長生きできる〔施策31〕 ～いつまでも健康で活躍できる環境づくり～ 【担当部局：健康福祉部・教育庁】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	9事業	493,416	10事業	519,766
	◆年金プラスαのシルバーライフを実現する〔施策32〕 ～高齢者のコミュニティビジネスなどへの支援～ 【担当部局：企画振興部・健康福祉部・農林水産部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	6事業	166,597	6事業	447,100
	◆介護が必要になっても安心して暮らせる〔施策33〕 ～地域での介護を支える環境づくり～ 【担当部局：健康福祉部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	9事業	1,015,537	9事業	2,024,500
	◆病気になっても安心して暮らせる〔施策34〕 ～安心な地域医療体制の整備～ 【担当部局：健康福祉部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	16事業	708,350	16事業	907,760
②長寿のための体制づくり	◆長寿を支える環境を整備する〔施策35〕 ～高齢者が安心して暮らせる環境づくり～ 【担当部局：健康福祉部・商工観光労働部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	15事業	1,329,848	16事業	1,664,770

2 戦略の評価

指標〔単位〕		策定時	H24 〔達成度・増減〕	H25 〔達成度・増減〕	H26 〔達成度・増減〕	目標値(H27) 〔単位〕	前年度からの推移の分析
①	地域の縁がわ箇所数〔か所〕	276 (H23)	380 <76.0%>			500〔か所(累計)〕	地域貢献活動の一つとして社会福祉法人に設置を働きかけたり、地域での掘り起こしを行った結果、104箇所の増加となった。
②	シルバーインストラクター登録人数〔人〕	— (H23)	38 <31.7%>			120〔人(累計)〕	H24年7月から制度を開始し、競技団体等に登録を呼びかけた結果、38人の登録があった。
③	認知症サポーター活動が活性化している市町村数〔市町村〕	12 (H23)	27 <60.0%>			45〔市町村(累計)〕	認知症サポーター活動活性化の支援を図り、平成23年度末の12市町村から、15市町村増加し、平成24年度末は27市町村となった。(※平成24年度目標値：25市町村)
④	訪問看護ステーションがある市町村数〔市町村〕	31 (H23)	31 <68.9%>			45〔市町村(累計)〕	平成24年度に訪問看護ステーションの新設等はあったものの、訪問看護ステーションがある市町村数については31市町村のままで変動はなかった。
⑤	【補】県内の自治体病院における常勤医師数〔人〕	316 (H23)	318 <94.6%>			336〔人(累計)〕	自治医科大学卒業医師の義務年限終了後の県内定着促進及び熊本大学に設置している寄附講座からの医師派遣など、各種の医師確保対策により、平成24年度は2名の増加となった。
(2)平成24年度の主な成果		(3)平成25年度の推進方針・推進状況		(4)戦略を推進する上での課題		(5)今後の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ●H24年7月に「シルバーインストラクター制度」を創設し、インストラクターの登録や、利用者からの派遣申込みの受付を開始。インストラクターへ38人が登録。 ●フッ化物洗口実施率が、保育所・幼稚園で55.6% (H23:48.6%)、小中学校で3.8% (H23:1.1%) に上昇。 ●高齢者が主役のコミュニティ・ビジネスの起業に向けた取組み2件に補助を行い、高齢者の雇用を促進。 ●コミュニティ・ビジネスセミナーを実施し、高齢者をはじめとする地域住民の意識啓発及び課題解決能力の向上を促進。 		<ul style="list-style-type: none"> ●インストラクターの登録促進のため、競技団体やシルバー作品展入賞者等に呼びかけを実施。利用促進のため、PRパンフを各施設等に配布。 ●小中学校でのフッ化物洗口の実施に向け、県民(保護者)の知識や理解の向上を図りながら、県民運動として取組みを加速。 ●地域づくり夢チャレンジ推進事業の「コミュニティ・ビジネス起業化の取組み」で、年金プラスαの収入が得られるシルバーライフの実現を引き続き支援。 ●H24年度のセミナーの効果を受講者からのアンケートをもとに分析し、より効果的な講座に改善。 		<ul style="list-style-type: none"> ●文化・芸術系のインストラクターの登録促進、利用促進のための制度周知。 ●フッ化物洗口の有効性や安全性についての県民理解の促進と学校での洗口を実施する時間の確保。 ●地域団体における企画から事業実施まで行う人材の確保・育成や、事業開始後の継続的な仕組みづくり。 		<ul style="list-style-type: none"> ●インストラクターの登録及び利用の促進。 ●フッ化物洗口の推進に向けた市町村の理解と協力の確保。 ●高齢者をはじめとする住民によるコミュニティ・ビジネスの起業化に関するノウハウの普及。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●地域の縁がわが新たに104箇所増えて380箇所となり、地域の交流を促進。 ●認知症サポーターの人数が16万5千人を超え、人口比で4年連続日本一となるとともに、サポーター活動が活性化している市町村が27団体に増加。 ●820人分の施設・居住系サービスの施設整備を実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ●組織的な小地域ネットワーク活動等の推進を図るため、フォーラムの開催や地域福祉の専門家の派遣等活動を支援。 ●認知症サポーターの継続的な養成、活動活性化へのボランティア活動の立ち上げや強化に向けた支援。 		<ul style="list-style-type: none"> ●「熊本見守り応援隊」の取組強化への周知・啓発。 ●認知症サポーターの養成や活動活性化が進んでいない市町村への支援。 ●市町村における施設・居住系サービス等の進捗状況の把握と必要に応じた助言・指導。 		<ul style="list-style-type: none"> ●地域の結びつきなど組織的な小地域ネットワーク活動の全市町村社協での実施。 ●H26年度までにサポーターによる高齢者支援の取組みが全市町村で展開されるよう支援。 ●第5期介護保険計画に基づく2,312人分の施設整備目標の達成。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●阿蘇、芦北、天草圏域の訪問看護ステーションに訪問看護師等8人を確保。熊本大学寄附講座から医師25名を派遣 ●在宅医療を担う医療・介護の多職種による連携検討会議で、在宅医療推進に向け意識の共有を図った。 ●国と共催で看護師等の雇用の質向上に係る研修会を県内3カ所で開催し、医療機関の理解を促進(468名参加)。 		<ul style="list-style-type: none"> ●訪問看護ステーションサポートセンターの運営や新たに条件不利地域での訪問看護ステーションの立上げ支援を行うなど、在宅医療支援体制づくりを推進。 ●地域の実情に応じた在宅医療連携体制の構築。 ●「キャリアアップ支援」「魅力ある職場づくりの推進」「就労支援の充実」を柱に看護職員確保を推進。 		<ul style="list-style-type: none"> ●医療・介護等が連携した在宅医療提供体制整備、特に24時間体制の確保、県内全域での訪問看護提供体制整備、在宅医療・看取りなどに関する普及啓発等。 ●看護職員の処遇改善に向けた不規則な勤務体制や長時間労働、給与、育児支援体制の不備等の労働環境の改善や、キャリアアップの研修支援体制の整備等。 		<ul style="list-style-type: none"> ●H27年度までに、訪問看護を県内全域で利用できる体制を整備。また、各圏域で在宅医療の連携を検討する多職種連携会議を設置。 ●H27年度までに、看護師等学校養成所卒業者の県内定着率を55.9%に向上。また、看護職員の離職率を8.18%以下に低下。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●認知症医療体制の3層化をめざし、事例検討会(基幹型6回、地域型40回)、かかりつけ医の研修、「火の国あんしん受診手帳」試行運用等を実施し3層化が一定程度進展。 ●介護福祉士や社会福祉士の資格取得をめざす学生249人(H21～24年度)に修学資金を貸与。養成所入学者がH20年度から年平均45人増加。 		<ul style="list-style-type: none"> ●認知症サポート医、かかりつけ医への研修強化。認知症医療に関するポイント集の作成、配布。「火の国あんしん受診手帳」の本格施行に向けた検討。 ●介護福祉士等の修学資金貸与の制度充実。 		<ul style="list-style-type: none"> ●2層目(地域拠点型センター、専門医)の専門性及び3層目(かかりつけ医)の認知症対応力の更なる向上、2層目と3層目の連携強化。 ●質の高い介護人材の安定的確保や定着。 		<ul style="list-style-type: none"> ●2層目と3層目の更なる認知症対応力向上に向けた研修等を実施するとともに、地域連携バスや事例検討会を活用することで2層目と3層目の連携を強化し、3層構造の認知症医療体制の構築を推進。 ●介護職のイメージアップや勤務環境の改善等の推進。 	